

講義名	心理学演習（体験型コミュニケーション）			授業形態	
担当教員	中川 典子	開講期・曜日・時間	後期 火曜日 3 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

主題と概要

SNSの普及は利便性とともに、以前には見られなかった新しい形式で人と人とを繋ぐツールを私たちの日常生活にもたらした。他方、SNSの普及により、直接他者と対面してコミュニケーションをとりながら人間関係を構築することに苦手意識をもつ若い世代を生み出してきたことも否めない。本コースでは、「ラボラトリー方式」による体験学習を通じてグループメンバーとの対面によるコミュニケーションを実践することにより、社会で生き抜くための実践的なコミュニケーション力を培うことを目的とする。

到達目標

本コースでは以下の能力を養うことを到達目標とする。

- (1) グループ活動を通じて自分のこれまでの他者との関わり方を見直すことができる。
- (2) 良好な人間関係の構築について、考察を深めることができる。
- (3) 自分自身を見つめ直し、自己理解を深めることができる。
- (4) 多様な視点で物事を捉えることができるようになる。
- (5) 文化とコミュニケーションとの密接な関係を理解できるようになる。
- (6) リーダーシップについて考え、実践することができるようになる。

提出課題

授業内容は、「自己理解」「課題解決型ワーク」「ビジネスマナー」「異文化間コミュニケーション」というビジネスコミュニケーションに必須の4本柱で構成されている。上記のテーマの幾つかについては、登壇の授業準備のために課題としてRyuka Portalのキャンパスクロスに掲載するので、期限までに提出する。また、授業に毎回の授業活動に対する考察を「学びと気づきの振り返りシート」に執筆し、期限までに提出する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

毎回、授業後に振り返りシートの執筆を課す。登壇の授業の最初に教員が「学びと気づきの振り返りシート」を匿名で紹介し、クラスで共有する。また、その他の課題に対する受講生の回答を授業中に共有し、テーマに対する理解を深める。

評価の基準

(1) 課題 (60%)
(2) 定期レポート試験 (40%)

*コースの評価は、上記の成績評価基準の両方の項目を総合して行うが、どちらか1つしか取り組まない場合は不合格となる。

履修にあたっての注意・助言他

(1) コースの評価は、上記の成績評価基準のすべての項目を総合して行うが、一つでも不参加の項目がある場合は不合格となる。
(2) 講師が入室したときに教室にいない学生は遅刻者と見なす。特別な理由がない限り遅刻厳禁。
(3) 15分以上の遅刻は欠席となる。また、5回以上欠席すると定期試験の受験資格を失い、単位を取得することができない。遅刻するとその日のワークに参加できなくなり、振り返りシートも提出できなくなるので注意すること。
*詳細は、第1回目の授業で知らせる。

教科書

.使用しない。					
---------	--	--	--	--	--

参考図書

その他

必要に応じて、適宜、Ryuka Portalの「キャンパスクロス」に掲載する。

授業計画

回	授業内容
1.	コースガイダンス；円滑なビジネスコミュニケーションのための4つの要素とは
2.	体験型コミュニケーション1（敬語トレーニング1、自分を知る、コンテキストとコミュニケーション）
3.	体験型コミュニケーション2（課題解決型ワーク1、発想ゲーム、文化と非言語表現）
4.	体験型コミュニケーション3（敬語トレーニング2、文章に表れる自己、文化と契約観）
5.	体験型コミュニケーション4（課題解決型ワーク2、私の20の歳、ビジョン構築）
6.	体験型コミュニケーション5（敬語トレーニング3、自己開示、文化と時間感覚）
7.	体験型コミュニケーション6（課題解決型ワーク3、言い換え表現1、文化と友人の概念）
8.	体験型コミュニケーション7（敬語トレーニング4、言い換え表現2、文化的配慮）
9.	体験型コミュニケーション8（課題解決型ワーク4、発想の転換、会話における文化差）
10.	体験型コミュニケーション9（敬語トレーニング5、原因帰属、文化と社交辞令）
11.	体験型コミュニケーション10（課題解決型ワーク5、こころの支え、文化と援助）
12.	体験型コミュニケーション11（敬語トレーニング6、決断しない理由、文化と尊敬）
13.	体験型コミュニケーション12（課題解決型ワーク6、カウンセリング体験、文化と金銭感覚）
14.	体験型コミュニケーション13（敬語トレーニング7、互恵的援助関係、文化と宗教）
15.	体験型コミュニケーション14（課題解決型ワーク7、10年後のあなたへ、文化と偏見）

*授業の進捗状況により、() 内のすべてのワークを1回の授業で完了できない場合がある。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> A：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> U：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	<input type="radio"/> カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

授業内容に応じて上記を適宜採用する。毎回、すべてを網羅するわけではない。

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：前回の授業の復習、および、登壇の授業準備のための課題に取り組み、（約2時間）
復習：その日の授業内容を復習し、理解を深めるとともに、講義内容や授業内活動に対する振り返りシートを執筆する（約2時間）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本コースは以下の点において、人間社会学部心理コースのディプロマポリシーに貢献する。
(1) 講義の履修を通じて、自己理解とともに人々の心理を理解し、同時にコミュニケーション能力を培うことは、よりよい人間社会の創造につながる。
(2) 毎回の課題に対するクラスメートの意見やフィードバックを知ることで、個々人の体験をクラスで共有する。また、個々人が学習事項を内省することで、日常生活だけでなく、ビジネスや援助場面等、その他の社会生活の場面における実践へとつなげることができる。
(3) 授業では異文化トレーニングや対人コミュニケーションの理論に基づき、体験学習を実践するが、その際、実践だけではなく、人の心理と行動に関する知識も深めることができ、ビジネス場面や援助場面で応用することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

受講生が提出した「学びと気づきの振り返りシート」の幾つかを授業で共有し、教員がコメントをする。授業内容、その他に関する質問は常時、授業中および振り返りシートを通じて受け付け回答する。

実務経験の有無及び活用

備考

「体験学習」をテーマにしたこの授業では、受講生の積極的な活動への参加と授業に先立つ課題の提出が必須となる。授業に関する連絡はキャンパスクロスを通じて行うので必ず確認すること。